

ビオトープで生物調査

市が主催
東雲高で 環境管理のヒント得る

篠山東雲高校で7月26

日、多様な生き物がすむ
ビオトープの管理者や環
境に配慮した農業に取り
組む人たちが対象にした
「田んぼの生きもの調査
講習会」(丹波篠山市主
催)があった。参加者た
ちは、生き物の生態につ
いて解説を受けるなど
し、ビオトープを管理す
る上でのヒントを得てい

同校は5年ほど前か

ら、学校の農場の一部約
400平方メートルをビオト
ープとして整備。水深の深
い個所と浅い個所をつく
るなどし、さまざまな生
き物がすみやすい環境を



ビオトープ内の生き物の捕獲
に挑戦する参加者たち=丹波
篠山市福住で

丹波新聞

2021年8月5日

整えている。

講習会には市内から4
人が参加。同校の
主幹教諭が講師を務め

(同)、体験入部中の
中出身)、
君

君(同・鈴蘭台中出
身)も「助手」として調
査を手伝った。

参加者たちは網を手に
し、ビオトープ内の生き
物の捕獲に挑戦。アカハ
ライモリやドジョウ、マ
ツモムシなど約15種類を
確認。教諭が、捕ま
えたそれぞれの生き物の
生息場所や産卵方法など
について説明した。

参加者の1人で、ビオ
トープを管理している農
事組合法人「いずみ営農
組合」理事の さ
ん(69) 泉は「ビオ
トープの管理の仕方を改
めて認識できた。カスミ
サンショウウオがすむ泉
のビオトープの環境を
守っていきたい」と話し
ていた。

講習会を主催した同市
は、休耕田を活用してビ

オトープを整備する取り
組みを行う団体に対し、
「生物多様性促進活動補
助金」を交付している。
農業においても、環境と
生き物に配慮したコメの
栽培方法「農都のめぐみ
米」を推奨している。